

令和3年度 新庄東高等学校プレゼンテーション入試 資料1

夏休みのとある日、まさる(父)と、たかお(息子)は実家への帰省で帰りが遅くなりコンビニエンスストアに寄ることになりました。以下は、その時の会話文です。

まさる：こんな時間になっても何でも好きなものが食べられるからコンビニはやっぱり便利だなあ。

たかお：でもこんな時間までやっていてもそんなにお客さん多くないし、電気代もったいないんじゃないかな。

まさる：なるほど。ずっと開けておくと電気代はかかりそうだね。でも、みんなこの時間やっていることが前提の生活になってるから開いてないと困るだろうなあ。

たかお：早く店を閉めると儲からないのかな？廃棄する食料も多いうって聞くし。

まさる：早く閉めれば電気代も人件費もかからなくなるから良さそうだけどね。食品については賞味期限が切れたりしたらすぐ廃棄だから確かにもったいないね。でも品揃え悪いとお客さん来なくなるからなあ。難しいなあ。たかおがオーナーならどうする？

たかお：うーん。廃棄は減らしたいけど・・・ずっと棚がスカスカの店も嫌かなあ。でも、僕なら深夜は休むかな。休んだほうがメリットが多そうだ。

まさる：そうかあ。俺はいつ行っても開いてるって安心感は捨てがたいな。ずっと明るいから、防犯とかにも役立ってるみたいだし。